

軟障
名稱

えぬかたなれど、ほうせふひかせ給へり。

〔參考太平記〕南都北嶺行幸講堂供養事

比叡山ニ行幸成テ大講堂供養アリ、供奉ノ百寮悉君主ニ從ヒ奉ル、先一番ニハ、隼人、步障數百人、先前列ヲ引タリケル、

〔倭名類聚抄十四屏障具〕軟障 本朝式云、軟障一條、

〔箋注倭名類聚抄六屏障具〕延喜内匠寮掃部寮等式、並有軟障、而無一條字、此所引或是弘仁貞觀等式文軟障又見續日本後紀三代實錄、西宮記新儀式、源氏物語須磨卷蜻蛉日記按唐杜荀鶴松窓雜記、唐進士趙顏於畫工處得一軟障、圖一婦人、

〔廣韻三聲〕輓柔也、或从需、餘同、而充切、軟俗

〔伊呂波字類抄世雜物〕軟障本朝式云、軟障一條、

〔槐記〕享保十年六月十五日、古ヨリ輓障曲屏トテ、今日本ノ屏風ノコトニ用タルコト、歷々ノ書ニ見ヘタリ、尤ラシキ字ナリト思フカラ、イカヤウニモ漢ノ書ニアルベシト、近年思召テ、ヒタモノサガサルレドモ見ヘズ、宿儒老僧ナドニモ問ヘドモ不知ト答フ、源氏物語ナドニモ、輓障トイデテ、古ヘヨリセンセウト讀來レリ、季吟ナドノ湖月抄ニモ、センゼウト假名付シテ、出處モナケレバ、音義モ沙汰ナシ、何ト工夫シテモ、文字ハ漢字ナルベシト思召テ、久シキ御不審ナリシガ、コノ度フト通雅ニテ御覽當リナサレシガ、輓障曲屏ハ、其制出于日東ト書タリ、サレバコソ制モ文字モ、日本ヨリ出タルトハ、シラルレト仰ラル、總ジテ此公ノ御考、凡テ如此、一旦ニ大方ニ出處ニナルベキコト出テモ、落著セヌヲ、ムリ濟シニセズ、數十年ヲヘテモ御失念ナキユヘ、御若年ヨリスマヌコトノ、近年濟タルコト多シ、

〔倭訓栞前編十三〕せまやう 蜻蛉日記にみゆ、源氏にはせんぞやうとも、まさすけにせんざうと